

東欧経済ニュース

FBC Weekly Business Newsletter

今週のトピックス

- 航空機向け一体型高圧水素タンク開発を推進 = チェコ
- 三井物産がポーランドに新会社設立、電磁鋼板の供給を強化
- ポーランドの水素プロジェクト、EU助成900万ユーロを獲得



- EBRD、カザフの黒鉛鉱床開発を支援
- ロシアの動画投稿サイト「ルーチュエブ」、視聴者が倍増



ポーランド企業

衛星燃料補給システムを開発

ポーランドのロボティクス企業PIAPスペースがこのほど、ウカシェヴィチ航空研究所と共同で、人工衛星の軌道上燃料補給システムを開発するINORTプロジェクトをスタートさせた。

FBC Business Consulting GmbH

Address: August-Schanz-Str.8, 60433, Frankfurt am Main, Germany
Telephone: 069-5480950 Fax: 069-54809525 Email address: fbc@fbc.de
Website: <https://fbc.de>

テクノロジー

ポーランド企業、衛星燃料補給システムを開発	3
航空機向け一体型高圧水素タンク開発を推進＝チェコ	4
ティックトック、EUのポイ活サービスから撤退	5
ウクライナの睡眠支援アプリ、米ワン・イレブンが買収	5

スタートアップ企業

薄膜固体電池技術開発 The Batteries (ポーランド)	6
----------------------------------	---

自動車

三井物産がポーランドに新会社設立、電磁鋼板の供給を強化	7
短信：ソラリスの水素バス、チェコで10台受注	7
中国リンロンタイヤ、セルビア工場の生産能力を増強へ	8

その他産業

ポーランドの水素プロジェクト、EU助成900万ユーロを獲得	8
伊家電大手デロンギ、ルーマニアにコーヒーマシン工場開設	9
セルビア、ミニ衛星の打ち上げを計画	9
EBRD、カザフの黒鉛鋳床開発を支援	10

総合・マクロ

中国がEUをWTO提訴、EVへの関税上乗せ巡り	10
EUがウクライナ金融支援を本格開始、第1弾は42億ユーロ	11
独の対ポーランド輸出、中国を抜き4位に	11
クロアチアのグリーン水素、2050年の生産・消費量予想は24万トン	12
ロシアの動画投稿サイト「ルーチューブ」、視聴者が倍増	12

テクノロジー

ポーランド企業

衛星燃料補給システムを開発

- 衛星の寿命を延ばし、持続可能な宇宙開発に貢献する狙い
- PIAP スペースは宇宙産業向けロボットの開発を手がける



衛星への燃料補給のイメージ

ポーランドのロボティクス企業 PIAP スペースがこのほど、ウカシェヴィチ航空研究所と共同で、人工衛星の軌道上燃料補給システムを開発する INORT プロジェクトをスタートさせた。燃料枯渇を避けることで衛星の寿命を延ばし、持続可能な宇宙開発に貢献する狙い。燃料補給を想定していないモデルにも対応できるようにする目標だ。欧州宇宙機関 (ESA) の助成を活用する。

欧州ではこれまでのところ、飛行中の衛星に燃料を補給する技術

の規格がない。INORT は、包括的なロードマップを策定して軌道上燃料補給の実現を担うプロジェクトとして位置付けられる。具体的には、近傍運用、ドッキング、燃料補給、切り離しの各技術からドッキングの用意がない飛行体との結合システム、軌道上で正確に任務を遂行できるロボットアームに至る一連の開発作業に取り組む。重点を軌道上操作および燃料補給に置くことで、軌道上サービスの可能性を広げられると期待される。

ウカシェヴィチ航空研究所の宇

宙技術センターは、コネクタや推進剤移送手順など燃料補給技術の開発を担当する。やはり航空研究所傘下の無人機運行センターは、衛星の位置を特定する光電センサー開発、ドッキング及びドッキング後の操作手順の精緻化を受け持つ。

PIAP スペースは 2017 年にワルシャワで操業。宇宙産業向けロボットの開発を手がける。22 年には、米航空宇宙局 (NASA) と ESA が共同で火星の岩石標本の採取・回収に取り組む「マース・サンプル・リターン」ミッションの採取ローバー用シャーシのプロトタイプを製作した。また、ESA の軌道上サービス向けロボットアーム開発プロジェクト「TITAN」の元請業者でもある。

今年 1 月には ESA の月着陸ミッション「Agronaut」に関連し、同社が試作したロボットアームが試験段階に入ると発表された。採用が決まれば、着陸船から月面に貨物を搬出するシステムに組み込まれる。

PIAP スペース社ホームページ

<https://piap.space/>

OST42382

航空機向け一体型高压水素タンク開発を推進 = チェコ

- 構造部材自体を燃料タンクとして利用し機体の大きさを抑える
- 開発が順調に進めば 2028 年に航空機に搭載できる見通し

チェコ工科大学と複合材料部品のコンポテック (CompoTech)、航空機メーカーのディスタル (Distar) が協力し、一体型高压水素タンク開発プロジェクトを進めている。航空機の構造部材そのものを燃料タンクとして利用することで機体の大きさを抑え、同時に最大の安全性を確保できるタンクを実現する目的だ。順調に進めば 2028 年に航空機に搭載できる見通し。

目標は、タイプ 4 の高压水素タンク、あるいはライナ (内殻) のないタイプ 5 の高性能水素タンクの実

用化だ。タンクの位置は主翼と尾翼が考えられたが、主翼の胴体に近い部分のほうが利点が多いと結論付けられた。

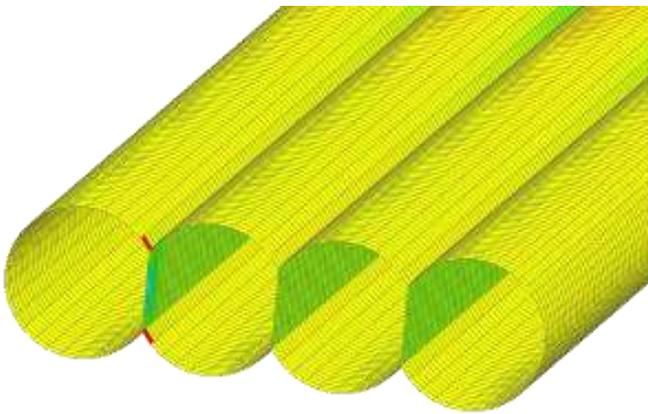
成形はフィラメントワインディング技術を発展させたコンポテック独自のロボット積層技術 (RAFL) で行う。軸方向に繊維を配置できるのが RAFL の特長だ。形状は平らで翼に似た、比較的複雑なものになる。

来年の完成を目指して現在、試験体を製作している。長さ 2.5 メートルなど数種類の大きさを用意す

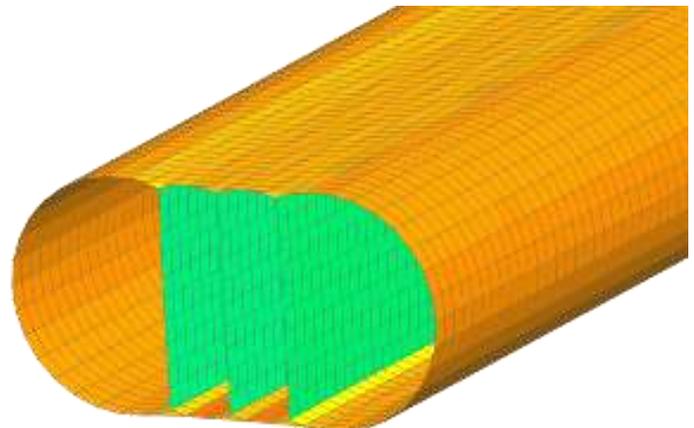
る方針だ。材料は炭素繊維とエポキシ樹脂だが、透過率の違いを確かめるため (1) 標準的なエポキシ樹脂 (2) 高遮断性エポキシ樹脂 (3) 熱可塑性樹脂ライナ付き——の 3 タイプを作る。(3) はタイプ 4 のタンクに分類される。

性能テストでは◇破壊試験で 800 バールを達成◇使用圧力 350 バールでの圧縮水素透過試験をクリア——などを目指す。

コンポテック社ホームページ
<https://compotech.com/>



開発中の水素燃料タンクのイメージ図



OST42383

ティックトック、EUのポイ活サービスから撤退

- 欧州委はポイ活機能には中毒性があり依存リスクが高まると指摘
- ティックトック・ライトのポイ活機能の運用を恒久的に中止

欧州委員会は5日、中国系動画投稿アプリの TikTok（ティックトック）の運営会社が軽量版アプリ「ティックトック・ライト」について、EUで「ポイ活、機能の運用を恒久的に中止すると発表した。

ティックトック・ライトは18歳以上の利用者が動画を閲覧したり、友人を招待した場合などにポイントが貯まる機能がある。ポイ

ントはアマゾンのギフト券などと交換できる。EUではフランス、スペインで4月に運用が開始された。

欧州委は4月、ポイ活機能には中毒性があり、未成年者などの依存リスクが高まると指摘。EUのデジタルサービス法（DSA）に基づき、運営会社に対して EU の懸念を払しょくできる説明を行うか、ポイ活サービスを停止するよう警告し

ていた。

これを受けて運営会社は4月下旬、フランスとスペインで60日間にわたって自主的にサービスを停止することを決定していた。

最終的に EU でのポイント付与サービスから撤退することを欧州委に約束し、同問題が決着した。

OST42381

！ウクライナ戦争関連記事

ウクライナの睡眠支援アプリ、米ワン・イレブンが買収

- アプリは20年に米国で「瞑想・睡眠」アプリのナンバー1に
- ブースターズは売却益をウクライナの慈善団体に寄付

英語学習アプリ「プロモヴァ」、自己肯定アプリ「マニフェスト」などを手がけるウクライナのアプリ開発業者ブースターズはこのほど、睡眠支援アプリ「アヴロラ（Avrora）」を米同業のワン・イレブンに売却した。取引額は公表されていないが、売却益のなかから8万5,000米ドルをウクライナの慈

善団体に寄付する。

アヴロラは2018年にサービスを開始。これまでに1,000万人超のユーザーを獲得し、1,500万米ドル以上の売上を達成している。2020年には米国で「瞑想・睡眠」アプリのナンバー1に輝いた。

ブースターズは今回の売却で得た利益のうち8万5,000ドルを、戦

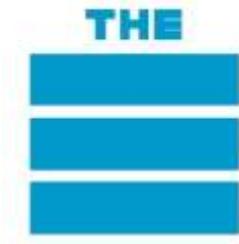
災孤児支援団体「チルドレン・オブ・ヒーローズ」のほか、前線に従事する兵士を支援する「コロ」の負傷兵救出活動へ寄付する。

ブースターズ社ホームページ

<https://boosters.team/>

OST42384

スタートアップ企業



薄膜技術を活用し電池のエネルギー密度を高める

The Batteries (ポーランド)

薄膜固体電池技術開発

薄膜技術を用いた高容量の全固体電池を開発している。同電池は現在主流のリチウム電池に比べてエネルギー密度が高いうえ、わずか8分で100%充電できる。長寿命なのも特長で、毎日1回充電した場合、約68年使えるという。

同社の新型バッテリーは、高密度プラズマを用いた真空蒸着法で製造する。すでに特許を取得済み

だ。電解質材料が固体のため、バインダーなど、電池本来の働きとは関係のない物質を加えなくて済み、小型化が可能になった。

エネルギー密度は1,200ワット時毎リットル(Wh/L)で、寿命を示す充電サイクル1万~2万5,000回と、一般のリチウムイオン電池(最高2,000回)に大きく水を開ける。液体・ゲル状のモノに比べると

安定性が高く、発火の危険が小さいのも利点だ。動作環境温度でも、リチウムイオン電池やリチウムポリマー電池の0~60度に対し、同社の電池は零下40~170度と勝っている。

同社は2016年の設立。欧州連合(EU)の研究助成プログラム「ホライズン2020」から資金提供を受けている。

The Batteries Sp. z o. o

Jasionka 954, 36002 Jasionka, Poland

info@thebatt.tech <https://thebatteries.tech/>

OST42385

FBCのロングリスト調査は



- ① 貴社の案件に合う対象企業をヨーロッパ全土から探します
- ② 全ての企業に貴社のプレゼン資料を送付
- ③ その後メール・電話で興味の有無を1件1件確認します

新たな**ビジネスパートナー**を探します

自動車

三井物産がポーランドに新会社設立

電磁鋼板の供給を強化

- 欧州の EV 需要増に対応、2026 年 4 月の生産開始を予定
- 同社は蘭とカナダの電磁鋼板加工拠点でも増強を進めている

三井物産は 15 日、ポーランドに電磁鋼板加工の新会社「ポルスカ・ミット・スチール」(PMS) を設立すると発表した。欧州の電動車需要増大に対応する目的。2026 年 4 月の生産開始を予定する。

PMS は三井物産の 100%子会社で、資本金は約 34 億円。同国南西部ブジェク近郊のスカルビミエ

シュに設置し、約 50 人を雇用する。電磁鋼板は完全電気自動車 (BEV) やハイブリッド車 (HV) などのモーターコア、発電所や変電所の変圧器コアに使われる。世界的に気候変動対応への取り組みが広がるなか、電動車や再生可能エネルギー分野での需要増加が見込まれており、安定供給に向けた

サプライチェーンの拡充が急がれている。

三井物産は昨年からオランダとカナダの電磁鋼板加工拠点に追加投資を行い、加工能力の増強を図っている。

OST42386

短信：ソラリスの水素バス、チェコで10台受注

ポーランドのバス製造大手ソラリスは 6 日、チェコの民間バス会社 Martin Uher Bus から水素バス「ウルビーノ 12 ハイドロジェン」10 台を受注したと発表した。2025 年末に納車する予定。「ウルビーノ 12

ハイドロジェン」は、出力 70kW の燃料電池を搭載する。Martin Uher Bus は、中央ボヘミア地方 (プラハ近郊) のムニーシェク・ポト・ブルディ地域で「ウルビーノ 12 ハイドロジェン」を運行する予定。ヴラ

ネ・ナド・ヴルタヴォウにある水力発電所から供給される 100% グリーン電力から生成された水素を燃料として使用する。

OST42387

経済活動に大きく影響する
EU の政策動向をお伝えしています



欧州経済ウォッチャーを読んで
今の EU を知ろう

FBC

中国リンロンタイヤ、セルビア工場の生産能力を増強へ

- 高性能ラジアルタイヤの年産量を 110 万本増やす
- 来年 1 月の着工と 2030 年末までの完成を予定

中国のタイヤ大手、山東玲瓏（リンロンタイヤ）はこのほど、セルビア北部ズレニャニン工場の生産能力を増強すると発表した。欧州での需要拡大に対応するのが目的。6億4,500万米ドルを投じて工場を約8万8,000平方メートル拡張し、高性能ラジアルタイヤの生産量を年110万本増やす。来年1月の着工と2030年末までの完成を予定する。

増加する110万本の内訳は、トラック・バス用80万本、農機用15万本、建機用5万本、再生タイヤ10万本。容量24メガワット（MW）の太陽光発電設備も併設する。

リンロンタイヤは2019年4月にセルビア工場の建設を開始した。当時の政府発表によると、総投資額は8億6,300万ユーロで、同国北部では過去最大規模の投資プロ

ジェクトだった。年間1,362万本の生産能力の内訳は乗用車用1,200万本、トラック・バス用160万本、トラクターなどのオフロード車用2万本となっていた。

リンロンタイヤは23年にセルビア事業で14億ディナール（約1,200万ユーロ）の純利益を計上している。

OST42388

その他産業

ポーランドの水素プロジェクト

EU助成900万ユーロを獲得

- オルレンは18企業連合「ハイスパーク（HySAPARK）」を主導
- 助成金は水素燃料電池車の製造・試験運用資金として活用する



ポーランドの石油大手オルレンは13日、自社が主導する18企業連合「ハイスパーク（HySAPARK）」が欧州連合（EU）のクリーン・ハイドロジェン・パートナーシップ・プ

ログラムから900万ユーロ弱の助成を獲得したと発表した。水素燃料電池車の製造・試験運用資金となる。ポーランドにおけるプロジェクトが同プログラムから助成を受けるのは今回が初めて。

水素はオルレンのヴウォツワヴェク拠点から供給する。やはりEU助成でショパン空港に整備される水素充填施設が2026年に完成し、独アルトゥーアのバス、独クヴァントロンのトラック、イタ

リアの産学連合アテナのグランドハンドリング用車両に水素を供給する。ワルシャワ市バス会社およびオルレン、LSエアポートサービスがこれらの燃料電池車を運行する。

ハイスパークにはポーランド、ドイツ、イタリアのほか、アイルランドと英国の企業・機関が参加する。今後、ポーランド中部に水素供給市場を設置する計画だ。

OST42389

伊家電大手デロンギ、ルーマニアにコーヒーマシン工場開設

- ルーマニアはデロンギ最大のコーヒーマシン生産拠点に
- 同国事業の 23 年純益は約 2,300 万ユーロ

家電大手の伊デロンギはこのほど、ルーマニア北西部のサトゥ・マーレに全自動コーヒーマシン工場を開設した。投資額は 4,000 万ユーロ。年内に約 350 人を雇用し、来年末までに 800 人に増やす。新工場の稼働により、同国はデロンギにとり全自動コーヒーマシン製品の最大の生産拠点となる。

デロンギの 2023 年の総売上高

30 億ユーロ以上のうち、コーヒーマシン製品は 59% を占めている。同社のニコラ・セラフィン・ゼネラルマネージャーは「ルーマニアで生産する製品の品質は世界で当社の市場地位を確かなものにするだろう」と述べた。

同社はルーマニアでクルジュ・ナポカ近郊のジユク・ヘルゲリエにエスプレッソマシン工場を、西

部のサロンタに「ブラウン」ブランドの朝食用家電製品工場を持つほか、全社的なデジタル化と自動化に向けた IT ハブも運営している。同国事業の 23 年の売上高は 24 億レイ（約 4 億 8,180 万ユーロ）、純利益は 1 億 1,500 万レイ（約 2,300 万ユーロ）だった。

OST42390

セルビア、ミニ衛星の打ち上げを計画

- 25 年末か 26 年初めに打ち上げ、太陽観測に活用する
- セルビアはノウハウを得て宇宙業界に本格的に乗り出す姿勢

セルビアが同国初の人工衛星を打ち上げる計画だ。1 辺 10 センチの立方体を 3 つ組み合わせたミニ衛星「モザイク」を 2025 年末か 26 年初めに軌道に送り出し、エックス線領域での太陽観測に活用する。

モザイクは 2 ～ 3 年の運用を予定する。セルビアはプロジェクトの過程で、部品調達から打ち上げに至る人工衛星の全般的なノウハウを獲得して宇宙業界に本格的に乗り出す姿勢だ。モザイクからはまた、宇宙から見たセルビアの画

像も毎日、得られるという。

今回のプロジェクトは、セルビア科学技術開発イノベーション省のほか、外国で暮らすセルビア人らが資金を負担している。

OST42391

FBCのショートリスト調査は



- ① ロングリスト調査の結果、興味・関心を示した企業の担当者を割り出します
- ② 当該企業の主な取引先や競合他社などのデータも入手します
- ③ ショートリストとして提出します

このデータをもとに**即営業を開始**できます

EBRD、カザフの黒鉛鉱床開発を支援

- 探査企業の豪社の株式 17.36%を 300 万ユーロで取得
- EU は黒鉛を重要原材料に指定

欧州復興開発銀行（EBRD）はこのほど、カザフスタン中部カラガンダ地方のサリトガン黒鉛（グラファイト）鉱床の探査企業である豪サリトガン・グラファイト・リミテッドの株式の 17.36%を 500 万豪ドル（300 万ユーロ）で取得したと発表した。EBRD が中央アジアの重要原材料（CRM）分野に直接投資するのは初めて。これによりカザフ

スタンの鉱業部門を継続的に支援し、欧州連合（EU）の黒鉛調達に道筋をつける。

黒鉛は電気自動車（EV）用バッテリーや電力産業、冶金などの分野で幅広く使われており、EU は CRM 分類で重要原材料に指定している。世界最大級とされるサリトガンの黒鉛鉱床は世界の主要供給源となる可能性があり、EBRD は透

明性と持続可能性を確保しながら同鉱床の開発を支援していく。

今回の出資は、原材料、バッテリー、グリーン水素に関する EU とカザフスタンの戦略提携に沿ったものとなる。EBRD はこれまでに同国の 324 件の産業プロジェクトなどに 102 億ユーロを融資している。

OST42392

総合・マクロ

中国がEUをWTO提訴、EVへの関税上乗せ巡り

- EU は 7 月、暫定的に最大 37.6%の関税上乗せを発表
- 追加関税の実際の徴収は反補助金調査が完了するまで先送り

中国政府は 9 日、欧州連合（EU）の欧州委員会が中国製の電気自動車（EV）に対する暫定的な関税上乗せを決定したことについて、世界貿易機関（WTO）のルールに反する不当な措置として、WTO に提訴したと発表した。

欧州委は 7 月、不当な公的補助を受けて競争を歪めていると批判している中国製 EV に対し、暫定的に最大 37.6%の関税を上乗せする措

置を適用すると発表した。ただ、追加関税の実際の徴収は反補助金調査が完了するまで先送りされる。中国との協議で決着に至らなければ、11 月 2 日までにまとまる最終調査結果を踏まえて、加盟国の承認を得た上で 5 年間の正式措置に切り替える。

中国商務省は欧州委の措置を「WTO のルールに違反すると同時に、地球温暖化問題での国際協

力を害している」と批判。WTO 提訴を宣言した。

WTO のルールでは、当事国・地域は紛争処理の第 1 段階として当事者間協議を行い、60 日以内に解決できなければ WTO の紛争処理小委員会（パネル）で本格的に争うことになっている。

OST42393

! ウクライナ戦争関連記事**EUがウクライナ金融支援を本格開始、第1弾は42億ユーロ**

- 戦闘長期化により疲弊しているウクライナ経済を下支えする
- 今回の正式交付で EU の支援額は約 120 億ユーロに達した

欧州連合 (EU) は 13 日、ウクライナに対する総額 500 億ユーロの金融支援について、定期的な支援を開始した。第 1 弾の交付額は約 42 億ユーロ。

EU はロシアとの戦闘が長期化し、疲弊しているウクライナ経済

を下支えするため、3月にEUの中期予算から 2024～27年に500億ユーロを拠出し、170億ユーロを返済不要の補助金、330億ユーロを融資の形で提供することを決定。加盟国は6日の閣僚理事会で、第1弾として約42億ユーロを交付するこ

とを承認していた。

これまでにEUは79億ユーロをつなぎ融資などの形で提供していた。今回の正式交付で支援額は約120億ユーロに達した。

OST42394

独の対ポーランド輸出、中国を抜き4位に

- 上半期の対ポ輸出高は前年同期比 4.6%増の 484 億ユーロ
- 中国依存の低減を図るうえで「注目すべき成果」

ドイツの今年上半期の対ポーランド輸出高が前年同期比4.6%増の484億ユーロ（暫定値）となり、対中国（2.7%減の482億ユーロ）を抜いたことが、連邦統計局のデータをもとにドイツ経済界東欧委員会が作成した表で分かった。ポーランドは米国、フランス、オランダに

次ぐ第4位の輸出先国に浮上。中国は5位に転落した。カタリーナ・クラスミュールホイザー委員長は「2004年のEUの大きな（東方）拡大から20年でポーランドはドイツ製品の販売で中国を追い越した」と指摘。独経済界が中国依存を低減し多様化を迅速に進めなければ

ならない事情を踏まえると「注目すべき成果だ」と強調した。

ドイツからポーランドには主に自動車、機械、化学製品が輸出されている。

OST42395

免責事項

弊社との契約でご指定になった住所の事業所及びEメールアドレス以外に本誌を配布・転送することを固く禁止いたします

本誌のご利用によって生じたトラブル・損失・損害に関し、当社は一切の責任を負いません

Rechtsform: GmbH Sitz: Frankfurt am Main HRB 44664

Geschäftsführer: Susumu Fujita

クロアチアのグリーン水素、2050年の生産・消費量予想は24万トン

- 同国では現在、32件の水素関連プロジェクトが進行中
- 水素の本格導入は公共輸送部門が好適

クロアチア炭化水素庁がこのほど公表した2050年までの水素戦略に関する調査報告によると、国内で生産・消費されるグリーン水素の総量は同年までに24万3,200トンに達する見込みだ。30年は2万6,400トン、40年は9万7,100トンと想定しており、水素市場が整うにつれて急拡大する見通し。同国では現在、様々な段階の関連プロジェクトが32件進行しており、うち6件はアドリア海北岸地域に水素産業の集積地を構築する「北ア

ドリア水素バレー」プロジェクトに関連している。

炭化水素庁では、水素の本格導入には運輸セクター、特に公共輸送部門が好適だとみており、初期段階ではザグレブをはじめスプリト、オシエク、リエカといった中核都市の公共交通機関が導入するとみている。一方、グリーン水素は価格が高いため、公共交通機関が廉価なサービス価格を維持するためには生産コストの引き下げが必要になると指摘する。

同庁はグリーン水素の生産奨励に向け、再生可能電力の開発促進で効果的だった差額決済契約(CfD)の活用を提言。水素の生産コストと規準市場価格の差である差額(プレミアム)については、生産された水素1キログラム当たり3.5～5ユーロの範囲になるとの予測を示す。30年までに運輸部門でグリーン水素の利用を奨励するための必要資金は約2,000万ユーロとしている。

OST42396

ロシアの動画投稿サイト「ルーチューブ」

視聴者が倍増

- コンテンツの不正公開が視聴者数を押し上げているもよう
- ユーチューブの通信速度は現在、従来の30%ほどのスピードに

ロシア版ユーチューブといわれる動画投稿サイト「ルーチューブ(RuTube)」の視聴者(国内に住む12歳以上)は今年7月、440万人となり、前年同月実績の2.1倍に拡大した。しかし、ユーチューブは9.4%増の5,560万人と、動画サイトランキングで1位をキープ。国内競合のVKビデオも5%増の5,470万人でルーチューブを大きく引き離している。

2022年2月の対ウクライナ侵攻を機に、ユニバーサル、ディズニー、ソニー、ネットフリックスといった西側大手メディア企業が撤退したが、そのコンテンツが不正

にルーチューブで公開されていることが視聴者数を押し上げているもようだ。昨年7月にはネットフリックスの人気ドラマ『ウィッチャー』、『ブラック・ミラー』、『クイーンズ・ギャンビット』、昨秋にはロシアで公開されなかった劇場映画『バービー』(ワーナー・ブラザーズ)、『オッペンハイマー』(ユニバーサル)の海賊版が登場。今年5月にも『デューン 砂の惑星PART2』(ワーナー・ブラザーズ)が不正に配信された。

なお、ロシアでは先月末以来、ユーチューブの通信速度が小さく

なっており、現在は従来の30%ほどのスピードしかない。政府は「法律違反」が理由と説明しているが、インターネットを外国から切り離す試みの一環という見方が有力だ。石油、天然ガス、金属、電力などに続く重要分野として、インターネット業界でも大手企業を直接・間接に管理下に置くことを目指しており、電子商取引(EC)最大手のワイルドベリーが先月、企業規模が格段に小さい屋外広告会社ルースと合併したのも、その延長線上に位置づけられる。

OST42397